

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

加茂中学校区	校番 85	福山市立加茂小学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月9日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校の連携を密にして、小中学校でつながりのあるカリキュラムを作成していく必要がある。</li> <li>・「地域とともにある学校」を目指すために、児童生徒と地域とが関わり合う時間を増やす。</li> <li>・社会に出て役に立つ力を小中9年間で育む。</li> <li>・学校家庭で児童生徒が失敗から学べる場を作っていく必要がある。</li> </ul>	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○友人との関わりや見方が固定化し、互いの新たな可能性や成長に気付きにくい。</li> <li>○困難な問題に対して試行錯誤を継続できず、早期に思考を停止したり、解答を諦めたりする傾向にある。</li> <li>○既習事項を新しい場面に応用・転用しようとする意識が低い。</li> </ul>	<p>育成する資質・能力</p> <p>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>課題発見・解決力 コミュニケーション力 あきらめない心</p> <p>自ら問いを立て、粘り強く課題解決に取り組むことも学びを自分事として捉え、社会・地域へつなげることも</p> <p>①「聞く・書く」を意識した授業づくり 他者の考えを受け止める傾聴と思考を言語化する時間を授業で確実に確保する。</p> <p>②地域とともにある学校 学校・家庭・地域が連携した教育活動の充実を図る。地域素材を活用した教育活動の実践。</p> <p>③幼保小中連携 子ども・教職員の交流を通して、幼児期から小中学校までの学びを揃え、つなぐ。</p>
---	---	--	--

III 自校

<p>学校教育目標</p> <p>ともに 学び合い 高め合う</p> <p>～自分を磨き 高める～</p>
---

<p>現状</p> <p>&lt;学習&gt;</p> <p>○興味のあることには意欲的で、継続的な積み重ねによる学力の伸びが見られる。 △「基礎・基本」の定着や思考力・表現力が十分ではない。</p> <p>&lt;生活&gt;</p> <p>○素直で感情豊か、他者を自然に受け入れる優しさがある。 △挨拶の返事が少なく、声が小さい。 △指示待ち、諦めが早い、失敗を恐れる。 △日常的に運動して体力を維持している児童と全く運動をせず体力が低下している児童の二極化が進んでいる。 △ゲームやスマホなどの使用時間が長く、家庭学習の時間が短い。</p> <p>&lt;授業&gt;</p> <p>△授業では、協働的な学びの形態は見られるが、一部の児童の発言に依存する傾向にある。</p>
--

育成する資質・能力	課題発見・解決力	コミュニケーション力	あきらめない心
めざす子ども像 内容等	<p>○学習したことや体験したことを結びつけ、「なぜ」「どうして」と自ら問いを見つけてることができる。</p> <p>○解決に向かう中で失敗しても別の方法を試したり、仲間の意見を取り入れたりとすることができる。</p> <p>○活動の過程を振り返り、次への課題へ意欲を繋げることができる。</p>	<p>○自分の意見を論理的に説明できる。</p> <p>○相手の反応を見ながら、質問や付け足しをして対話することで、考えを広げたり深めたりすることができる。</p> <p>○時と場に応じたふさわしい挨拶や言葉遣いを選択し、相手を思いやった態度で接することができる。</p> <p>○地域の課題を考えて解決しようとするなど、地域に貢献することができる。</p>	<p>○納得するまで何度も挑戦することができる。</p> <p>○「どうすれば伝わるか」「次はこうしてみよう」と自分なりに方向を修正して再挑戦できる。</p> <p>○困難に直面した時、周囲と意見を出し合って「共に」解決の糸口を探ることができる。</p>

研究	<p>テーマ</p> <p>「自ら学び、考え続ける加茂っ子」の育成 ～問いを作り出す教材の工夫と学び方を自己選択する授業づくりを通して～</p> <p>内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の思考を揺さぶる教材提示と「問い」の創出</li> <li>・「型」から「対話」へつなげるコミュニケーション指導</li> <li>・過程を価値づける「意味のある振り返り」</li> </ul>
めざす授業の姿	<p>①自ら問いを立て、学びを自己決定する授業</p> <p>②豊かな語彙を使い、仲間と最適解を求める対話のある授業(聞く・書く力の育成)</p> <p>③試行錯誤のプロセスを価値づけ、粘り強く学び抜く授業</p>

## IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	幼保小中が学 びをつなぎ、 粘り強く課題 解決する力の 育成を図る。	★	新 規	○児童自ら「解決し たい問い」を持 ち、学び方を自分 で選べる授業づ くり  ○失敗を恐れず 粘り強く最後まで やり抜く過程が 尊重される授業 づくり	○「問い」を生む教 材提示を研究し、 導入時に既習事 項との「ズレ」を 突く課題を提示し たり、学び方を選 択したりできる時 間がある授業を 計画する。  ○「試行錯誤」を可 視化して共有し 「失敗は学びのヒ ント」であるとい う文化を醸成する。 ○プロセス重視のフ ィードバックを行 い、具体的に価値 づける。	○授業で自分が学び たいことに向けて 学び方を自分で選 ぶことができた。 85%以上  ○難しい問題でも、あ きらめずにいろ いろな方法を試した。 85%以上 ○学年末テスト(国・算) 思考力・判断力・表現力 到達率80%以上									
2	基本的な生活 習慣を身につ け、規律ある 集団生活の中 で他者を思い やる態度を育 てる。		継 続	○「あいさつ・そう じ・そろえる」の 取組を通して、基 本的な生活習慣 を整え、規律ある 学校生活の定着 を図る。	○学級会や児童会、 委員会活動を通 して子ども主体の 取組を進め、生活 力の向上を図る。	○自ら進んであいさ つをする児童、時 間いっぱい清掃に 取り組む児童、く つ箱や机上の整理整 頓、授業準備がで きている児童の割 合がそれぞれ80% 以上。									
2	主体的に運動 に取り組む力 の向上を図 る。	★	継 続	○運動に親しみをも ち、進んで体を動 かそうとする力の 向上を図る。	○体育の学習にお いて、運動量があ る内容にする。 ○運動や遊びの引 き出しを増やすた めに、例を月1回 以上提示する。	○持久力が高まって いる。80%以上 ○「運動やスポーツ をすることは好き ですか」 肯定的回答90%以 上									

1	地域とつながり、主体的に地域に貢献し、地域に愛着をもつ児童を育成する。	新規	○地域との関わりをカリキュラムに位置付け、主体的な地域貢献活動を通して、地域への理解を深め、愛着の醸成を図る。	○生活科・総合的な学習を中心に各学年でふるさと学習のカリキュラムを作成し、地域学習を実施する。 ○地域と直接触れ合う学習を各学年1回以上実施する。	○「地域を大切にしたい」「地域の役に立ちたい」と実感する児童80%以上。														
---	-------------------------------------	----	---	--	--------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

## [プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

## [達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

## [総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。